

2016年6月

薄暑号

東京歯科大学千葉病院医療連携NEWS デンタルドットコム

医療連携委員より 一般歯科系 補綴科(老年歯科補綴学講座) 准教授 石崎 憲

◎医療連携について、シリーズで掲載します。

補綴科新患受付状況について



東京歯科大学千葉病院補綴科では初診や固定性補綴装置の破損や脱離、可撤性補綴装置の破折などの応急処置に限る再診を、当日の予診当番医が担当しております。受付時間は月曜～土曜の8時50分～11時でこの受診に予約は不要です。補綴装置の作製希望の患者様は当科担当医を決める手続きが必要となりますが、大学移転に伴う医局員の減少により、補綴科宛て紹介状をお持ちの方でも、担当医決定までに長期間お待ちいただいている現状が続いております。平素より医療連携にご尽力いただいております先生方にも大変ご迷惑をお掛けしておりますがご理解、ご協力戴きますようお願い申し上げます。

なお、緊急を要する補綴治療や顎顔面欠損に対する補綴治療などに関しましては可能な限り早期対応をさせて頂いております。個別の判断が難しい場合やご相談、配当期間等のお問い合わせは 043-270-3905（補綴科受付）まで御連絡頂きますようお願い申し上げます。

顎顔面補綴外来について

顎顔面補綴外来は腫瘍切除や外傷、先天性疾患等により生じた顎骨、舌、顔面の一部を喪失した症例に対する種々の顎補綴装置の提供による機能回復を主な治療内容とします。歯牙の欠如を伴わない舌、口蓋欠損症例や、脳血管障害などによる咽頭部運動障害などに対しても舌接触補助床や軟口蓋挙上装置などの提供により機能回復を図ることが可能です。

また、顎欠損を有する場合でも術後の補綴治療の既往がないまま放置されている、所謂「切りっぱなし症例」も少なからず存在します。口腔がんは加齢とともに罹患率も上昇し（図1）、その総数も年を追う毎に増加傾向にあります（図2）。

在宅診療やクリニックにてこのような症例に遭遇され、貴院にてのご対応が困難な場合は 043-270-3905（補綴科受付）顎顔面補綴外来 石崎 または 萩尾 まで御連絡頂ければ幸いです。

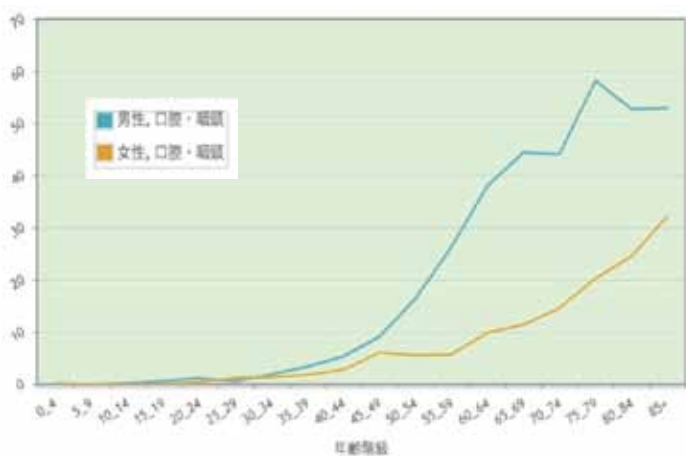


図1 口腔・咽頭がん年齢階級別罹患率（人口10万対）
（国立がん研究センターがん対策情報センター）

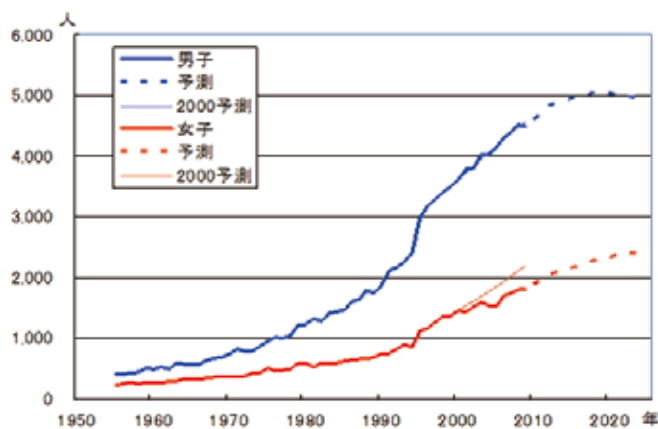


図2 口腔・咽頭がん死亡者数の年次推移
（東京都健康安全研究センター）

●医療連携講演会の開催ご案内 7月7日(木) 受付14:30 講演15:00~18:30

会場：東京歯科大学 千葉校舎 第1教室

I. 症例検討会

- 1. 「今日の顎関節症治療を考える～TCH是正と運動療法を中心に～」 口腔外科 重野 健一郎
- 2. 「難治性根尖性歯周疾患について」 保存科 加藤 広之

II. 講演会

- 1. 「摂食嚥下障害患者における病診連携の実際」 摂食嚥下リハ科 山本 昌直
- 2. 「歯科用CAD/CAMの変遷」 補綴科 石崎 憲
- 3. 「薬剤・ビスフォスフォネート関連顎骨壊死に対する診断と対応」 口腔外科 森川 貴迪

今年も医療連携講演会を開催します！多くの先生方のご参加をお待ちしております。



●ロビーイベント開催報告

ロビーイベント自薦他薦の募集！



村田憲一郎トリオ 2回目の出演
ドラムス：村田憲一郎 ピアノ：高橋由香
ベース：三橋洋介 司会：茂木悦子

良質の医療を提供することに加え、患者さんが気持ちよくご来院くださるよう近年、院内コンサートや院内講演会などの付加的サービス、いわゆるアメニティーを提供する病院が増えています。市川病院にない、千葉病院でもロビーコンサートを始めたのは2011年のことでした。出演者は隠れた才能を持つ当院関係者というポリシーで、ボランティアでの出演をお願いすることとし、当時英語ご担当のウィリアムス先生ご夫妻とお嬢様の3人によるピアノコンサートが開催されました。以来回数を重ね、3月26日には第8回を数えました(写真)。2014年は従来から行っていた写真展示をロビーギャラリーとしてリニューアルし、次回にはプロのカメラマンによる“顔”をテーマにした展示を予定しております。さらに、ロビークレチャーとして歯科の専門分野をわかりやすくお話しする部門を加え(これまで5回実施)、この3つの部門をロビーイベントとしてそれぞれの定期開催を目指しています。

ご来場のお客様のアンケート結果では概ね好評で引き続きの開催が希望されています。このロビーイベントは基本、先生方の自薦他薦による出演で行われています。今後ともぜひご協力の程、お願い申し上げます。 客員教授 茂木 悦子

●口腔がん集団検診開催予定 江戸川区/9月11日(日) 香取匝瑳地区/10月2日(日)

専門外来への紹介の仕方

◎お問合せの多い専門外来を、シリーズでご説明します。

唇顎口蓋裂外来

唇顎口蓋裂患者さんの治療は、美的障害、哺乳障害、食物摂取障害、言語障害、歯列不正、上顎骨劣成長、高度う蝕、呼吸器疾患、耳疾患、精神心理学的障害など複雑で多岐にわたっているため、その治療は多面的で各専門的な知識を必要とし、当専門外来では患者さんとその家族の要望に応じて関連各科が協力してチームアプローチ(集学的治療)を行っています(図1)。

また出生直後から顎発育の終了する成人にいたるまでの長期間にわたり、一貫した方針に基づいて機能や審美はもとより顎顔面の発育に重点をおいた一貫治療を行っております(図2)。

さらに患児とその家族の精神的サポートとして母親教育、Hotz口蓋床の作製、言語治療やセカンドオピニオンにも対応しております。

治療担当専門医が少ない日や不在日もある関係でお手数をお掛けしますが、ご紹介頂く際には必ず電話にて予約をしていただきたいと思います。紹介状、母子手帳、などを持参の上、紹介して頂くようお願いします。

口腔外科外来(直通)

TEL 043-270-3901

初診日：月、水 再診日：月、水、土
言語治療日：水



図1 チームアプローチ(集学的治療)

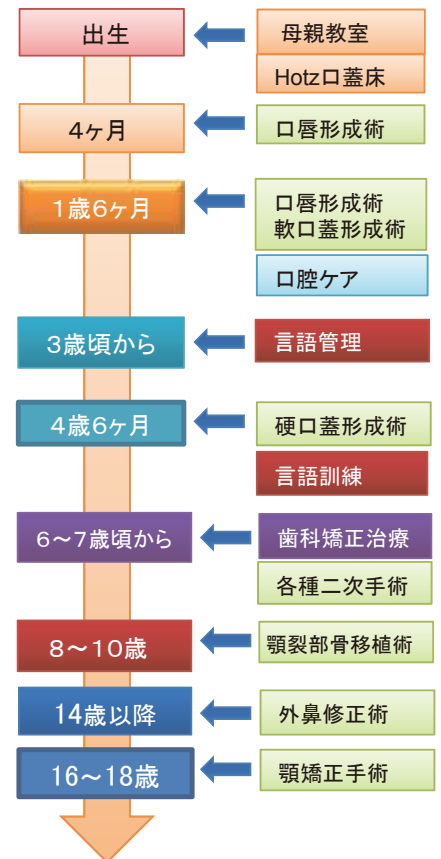


図2 一貫治療の流れ
(患者の状態や主訴によって多少変化します)